

新任のご挨拶

このたび五十嵐場長の後を受け、4月より着任しました。どうぞよろしく申し上げます。

富士養鱒場は私の初任地であり、社会人としての考え方、研究の組み立て方、魚の飼育方法などを身に付けた人生の中でも重要な位置を占める職場といえます。他の業務をしているときにも養鱒業界の変化や内水面漁業を取り巻く問題は気になるところでした。私が富士養鱒場を転出してからの20年の間に種苗生産業務を民営移管して研究に特化し、平成19年度からは研究成果の効率的な普及のため普及業務を専任化させるなど先進的な研究機関への変身が行われています。

ニジマスに対するニーズは年を追って変化しており、研究課題もそれにつれ変わってきています。近年では食品としての安全安心が最重要視され、生産者サイドとしても絶対に安心な食品を提供するという信念がなければ経営は成り立ちません。そのため、現在の当場の研究課題も消費者に向けた安心安全なニジマスの生産を目標に進められています。品質向上という面から出荷魚の鮮度の変化を調べ、鮮度保持の方法について検討を加え、マーケットの拡大のため、優良形質を持った品種の作出に向けて選抜育種を行っています。たとえば昭和53年に当場に導入されたドナルドソンニジマスなどは当時とはかなり変わって、すばらしい魚に変身しております。さらに、そのほかにも将来有望な候補生が次に控えています。昭和59年に始まったバイオテクノロジーの研究では精子のUVによる不活化などでしたが、いまでは将来の目標であったクローン系がすでにできあがり、耐病性などの養殖特性と遺伝子座の関係を

場長 川嶋尚正



を解明するための研究を行っています。

河川漁業では平成18年より今までの冷水性のサケ科魚類に関するものから、アユも担当することになっており、現在では流下アユ仔魚の海域での生態解明に取り組んでいるところです。

さらに、現場では沼津地区で行われている海面養殖業で発生する魚病への対応や養殖漁場の環境変化の監視なども行っており、業務内容は多岐にわたっています。

近年は研究員の質の向上や予算、人員の効率的な運用が今まで以上に求められており、厳しい状況ではありますが、養鱒業などの魚類養殖業の発展、内水面漁業の振興そして内水面環境の保全に向けて職員一同力を合わせて取り組んでいく所存であります。今後とも皆様方のご支援、ご協力を重ねてお願い申し上げます。

平成19年サケ科魚類の生産状況と魚病発生状況について

平成19年の静岡県におけるサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況がまとまりましたのでお知らせします。

1 調査状況

県内でサケ科魚類を養殖している経営体にアンケート票を配布し、魚種毎に生産量と生産額を、また魚病発生状況については疾病毎に被害量と被害額を調査しました。

なお、調査期間は平成19年1月1日から12月31日までの1年間としました。

魚種毎の回答状況を第1表に示しました。各魚種において、ほぼ100%調査することができたので、今回の調査でサケ科魚類の生産状況と魚病発生状況は把握できたのではないかと思います。

第1表 経営体数およびアンケート回収率

魚種	経営体数	回収数	回収率(%)	18年
ニジマス	23	23	100	25
ギンザケ	4	4	100	4
アマゴ	26	24	92	27
イワナ	8	8	100	8
その他	8	8	100	4

2 生産状況

平成15年から19年までのニジマス、ギンザケ、アマゴ、イワナ、その他の生産量の推移を第2表に、生産額の推移を第3表に示しました。その他の魚種にはヤマメ、ヒメマス、プラウトラウト、カワマス、イトウが含まれます。また、生産単価の推移については第4表に示しました。合計生産量は平成18年度より減少しましたが、合計生産金額は増加し、10億円を上回りました。

① ニジマス

生産量は1,778トンで、18年より21トン増加しました。生産額では9億612万円と平成15年以降では最も高くなり、単価も510円/kgと平成15年

第2表 生産量 単位：t

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H15	1,971	82	53	85		2,191
H16	1,939	82	43	121		2,185
H17	1,932	68	41	88		2,129
H18	1,757	66	72	87	17	1,999
H19	1,778	63	37	72	34	1,984

第3表 生産金額 単位：千円

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他	合計
H15	837,257	51,680	90,459	65,586		1,044,982
H16	847,916	48,400	68,250	82,443		1,047,009
H17	805,693	45,400	57,883	61,717		970,693
H18	751,730	46,520	100,460	62,960	19,000	980,670
H19	906,120	50,300	46,421	55,164	27,554	1,085,559

第4表 生産単価 単位：円/kg

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	その他
H15	425	630	1,707	772	
H16	437	590	1,587	681	
H17	417	668	1,412	701	
H18	428	705	1,395	724	1,118
H19	510	798	1,255	766	810

以降では最も高い値となりました。

② ギンザケ

平成19年の生産量は63トンと減少しましたが、生産額、生産単価は増加し、それぞれ、5,030万円、798円/kgでした。

③ アマゴ・イワナ

平成19年のアマゴ生産量、生産額、は37トン、4,642万円と大幅に減少しました。単価はやや低下し、1,255円/kgでした。イワナは生産量および生産額が平成18年と比較して減少し、それぞれ72トン、5,516万円でした。単価は766円/kgであり、やや上昇しました。

3 魚病被害状況

平成15年から19年までのニジマス、ギンザケ、アマゴ、イワナの魚病被害量の推移を第5表に、魚病被害額の推移を第6表に示しました。また、18、19年の疾病別被害状況について第7表に示しました。

被害量は平成17年と比較して18年はニジマスとイワナで減少しましたが、アマゴでは増加しました。被害額も同様の傾向を示しました。

① ニジマス

魚病被害量および被害額はそれぞれ176トン、1億2,214万円でした。対生産量、生産額比はそれぞれ9.9%、13.5%でした。被害量は被害の少なかった平成18年と比較すると32トン増加しました。被害額でも3,803万円、45.2%増加しました。

疾病別被害状況をみると、被害量ではレンサ球菌症の被害が最も多く35トンとなりました。ほとんどの疾病で被害量は増加しましたが、特にI

HN、イクチオホヌス症の被害が増加し、それぞれ28.30トンの被害がみられました。

被害額ではIHNが最も多く、3,310万円でした。ついでミズカビ病の1,750万円、イクチオホヌス症の1,505万円、となりました。

② ギンザケ

ギンザケでは被害のあった疾病がEIBSのみで、被害量は2トン、被害金額は80万円でした。

③ アマゴ

アマゴの被害量は1.4トン、被害額は217万円でした。疾病別被害状況はせつそう病の被害が最も多く0.8トン、次いで冷水病の0.4トンとなりました。

④ イワナ・その他の魚種

イワナ・その他の魚種では、被害量は6.7トン、被害金額は446万円でした。疾病別ではせつそう病が5.3トン、ミズカビ病が1.0トンとなりました。

(中村永介)

第5表 被害量

単位：kg

下段は生産量に対する割合(%)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H15	230,524	6,800	5,905	11,110	254,339
	11.7	8.3	11.1	13.1	11.6
H16	171,446	5,200	3,297	6,010	185,953
	8.8	6.3	7.7	5.0	8.5
H17	219,300	6,000	620	11,000	236,920
	11.4	8.8	1.5	12.5	11.1
H18	143,857	4,500	3,350	4,950	156,657
	8.2	6.8	4.7	5.7	7.8
H19	176,400	2,000	1,375	6,655	186,430
	9.9	3.2	3.7	9.2	9.4

第6表 被害金額

単位：千円

下段は生産金額に対する割合(%)

年	ニジマス	ギンザケ	アマゴ	イワナ	合計
H15	140,990	18,800	9,059	11,090	179,939
	16.8	36.4	10.0	16.9	17.2
H16	113,428	6,500	6,124	5,408	131,460
	13.4	13.4	9.0	6.6	12.6
H17	123,010	7,240	1,503	10,200	141,953
	15.3	15.9	2.6	16.5	14.6
H18	84,110	7,240	4,600	4,100	100,050
	11.2	15.6	4.6	6.5	10.2
H19	122,135	800	2,167	4,459	129,561
	13.5	1.6	4.7	8.1	11.9

第7表 疾病別被害状況

魚種	病名	被害量(kg)		被害額(千円)	
		H18	H19	H18	H19
ニジマス	IHN	16,350	27,910	23,400	33,100
	OMVD	4,500	6,000	4,500	6,000
	ビブリオ病	1,000	3,700	400	1,950
	冷水病	2,240	4,650	3,410	4,750
	レンサ球菌症	18,500	35,300	7,800	14,950
	細菌性鰓病	36,368	27,200	19,847	14,200
	白点病	0	800	0	1,600
	イクチオホヌス症	15,750	30,100	6,800	15,050
	ミズカビ病	26,000	24,600	8,450	17,500
	不明	23,149	16,140	9,303	13,035
	合計	143,857	176,400	84,110	122,135
ギンザケ	EIBS	5,500	2,000	7,000	800
	イクチオホヌス症	300	0	120	0
	ミズカビ病	200	0	120	0
	合計	6,000	2,000	7,240	800
アマゴ	IHN	100	0	200	0
	せつそう病	2,050	810	3,100	1,117
	冷水病	0	400	0	780
	白点病	0	55	0	60
	ミズカビ病	1,200	10	1,300	10
	不明	0	100	0	200
	合計	3,350	1,375	4,600	2,167
イワその他	せつそう病	3,000	5,305	1,700	3,277
	冷水病	0	0	0	0
	白点病	0	100	0	82
	ミズカビ病	1,500	1,000	1,200	800
	不明	0	250	0	300
	イクチオホヌス症	450	0	1,200	0
	合計	4,950	6,655	4,100	4,459

養鱒研究会が開催されました

平成20年2月26日～27日にかけて、富士養鱒漁業協同組合において養鱒研究会が開催され、養鱒業者19名と水産技術研究所富士養鱒場の職員5名が参加しました。東京海洋大学の岡本信明副学長から、「明るく、楽しく、粘り強く、攻め続ける養鱒業」と題して講演をしていただきました。ブランド化された高級食ではなく、から揚げのような大衆食で勝負すべきである、かかったコストから価格を決めるのではなく、価格の範囲内で製品を作る努力が必要であるとのことでした。

講演のあと、岡本先生が提供してくださったニジマスのから揚げを参加者で試食しました。癖がなく大変おいしかったです。

今回の講演は、ニジマスの消費について、みんなで考える大変良い機会になったと思います。

(鈴木基生)



平成20年度人事異動

転出	場長	五十嵐保正	→	水産技術研究所利用普及部長
	技師	中村永介	→	産業部水産業局水産資源室技師
転入	場長	川嶋尚正	←	水産技術研究所
	研究主幹	後藤裕康	←	水生生物多様性プロジェクトスタッフ研究主幹 産業部水産業局水産資源室主幹

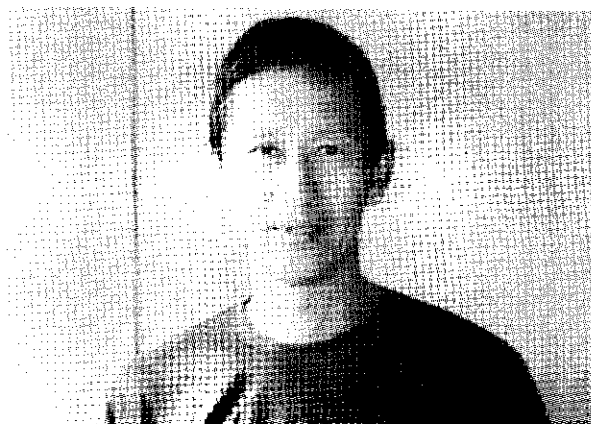
❖ 転入者自己紹介 ❖

4月の人事異動で、県庁水産資源室から富士養鱒場に異動となりました後藤です。主に研究の取りまとめや系統育種、アユの資源研究を担当することになります。富士養鱒場勤務は2度目で、前回は平成6～9年の4年間在籍し、主に河川関係や場内での生産関係の業務を担当していました。

久々の養鱒場勤務ですが、堅苦しい行政の仕事から解放されて自然豊かな環境で働ける喜びを感じる一方で、会場も近年の予算・人員削減の影響を大きく受けて思うような仕事ができないジレンマを痛感しております。微力ですが、業界や地域の振興、河川を通じた県民の生活環境向上のため

に努力していきますので、よろしくをお願いします。

(後藤裕康)



富士養鱒場の湧水と気象

月	天 候 (午前9時、日数)				降水量 (mm) カッコは降水日数		湧水量 (万トン/日)	
	快晴	晴れ	曇り	雨	19年	20年平均	19年	20年平均
10月	2	12	10	6	141(13)	241(9)	55.8	84.7
11月	3	12	13	2	13(5)	162(6)	42.5	63.2
12月	2	19	6	4	92(7)	58(5)	31.4	51.9

日 誌

<p>1月4日 仕事始め</p> <p>9日 本監査 (本所) アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>16日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>17日 養殖衛生管理研究報告会 (~18日、 東京都)</p> <p>23日 アユ海域調査、海況観測 (沼津市)</p> <p>24日 ニジマス祭り実行委員会 (富士養鱒漁協)</p> <p>28日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>30日 普及指導員一般研修 (本所) 水産加工技術セミナー (本所)</p> <p>31日 海面養殖担当者会議 (東京都)</p> <p>2月1日 富士宮市立黒田小学校119名見学 養鱒研究会 (富士養鱒漁協)</p> <p>4日 養殖漁場底質調査 (沼津市)</p> <p>6日 ケニファイン打ち合わせ (場内)</p> <p>7日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>8日 静岡県漁業士会総会 (東伊豆町)</p> <p>13日 研究成果報告会 (場内)</p> <p>14日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>15日 技術連絡協議会 (浜名湖分場)</p> <p>19日 プロジェクト研究追跡調査 (本所) 富士宮市立貴船小学校117名見学 中国浙江省農業調査員7名視察</p>	<p>21日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>25日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>26日 東京海洋大岡本副学長講演会 (富士養 鱒漁協)</p> <p>27日 岐阜県吉城水産連絡協議会10名視察</p> <p>29日 海水養殖シンポジウム (~3/1、高 松市)</p> <p>3月2日 ニジマス祭り (富士宮市)</p> <p>4日 研究評価会議 (本所)</p> <p>5日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>7日 普及成果報告会 (本所) アユ冷水病会議 (東京都)</p> <p>10日 養鱒協運営委員会 (東京都) アユ海域調査、海況観測 (沼津市)</p> <p>12日 芝川河川調査 (芝川町)</p> <p>13日 滋賀水試来場</p> <p>18日 アユ海域調査 (沼津市)</p> <p>19日 生産業務連絡協議会 (場内)</p> <p>21日 魚病対策委員会技術部会 (静岡市)</p> <p>24日 水産振興審議会 (静岡市)</p> <p>26日 魚病対策委員会・アユ冷水病対策会議 ・養殖生産物安全対策会議 (静岡市)</p> <p>27日 水産学会 (~31日、静岡市)</p>
---	--